



第1回東コミュニティふれあいの集い
(平成31年2月17日(日)／東小学校体育館)

まねあい 広域コミュニティ

～いつまでも笑顔で安心して暮らせる地区を目指して～

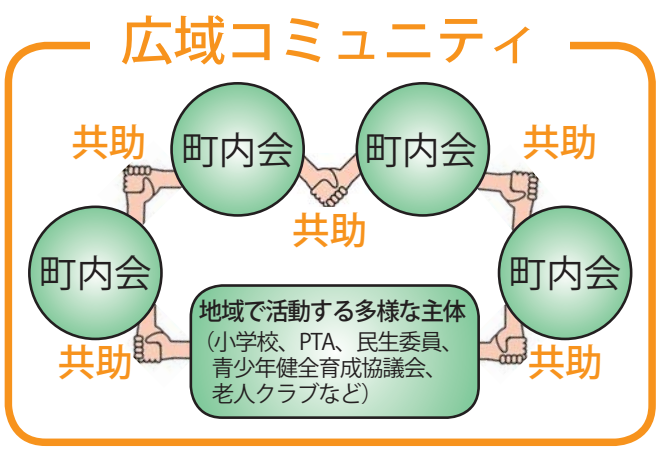
人 口急減・超高齢社会を乗り越えるために、市では「広域コミュニティ」づくりを推進しています。今回は、市や県（上北地域県民局）とともに「高齢者などの見守り活動」などに取り組む東地区コミュニティ推進協議会の活動を紹介します。

広域コミュニティとは？

これまで、町内会がそれぞれの地域の意思決定やイベント開催など、地域の暮らしを支える重要な役割を担ってきました。

しかしながら、急激な人口減少や超高齢化により、さまざまな地域課題が増え、一つの町内会だけでは対応することが難しい状況が見られるようになってきました。そのような状況は、今後ますます増え、これまで以上に地域住民や地域の多様な主体による支え合いが必要となっています。

町内会や地域の関係団体が共に助け合い(共助)、町内会活動を補完する組織が「広域コミュニティ」です。



東地区コミュニティ推進協議会

東地区では、人口減少や少子高齢化が進む中で、地域の多様なニーズに対し、これからは町内会だけでは解決できない課題も増えてくると考え、将来を見据えた地域運営を目的に東地区コミュニティ推進協議会(太田薫会長)を平成30年4月に設立しました。同協議会は、東小学校区の町内会や地域で活動する団体が連携し、設立した広域コミュニティ組織です。

高齢者などの見守り

同協議会は「いつまでも笑顔で安心して暮らせる地区を目指して」をテーマにさまざまな取り組みをしています。

その中で「高齢者の独り暮らしや高齢者のみの世帯の増加、孤独死」を地域課題の一つとして捉え、取り組み始めたのが「高齢者などの見守り活動」です。

東地区の中でも特に高齢者の暮らしに不安や危機感を持っていた向陽台町内会(板垣末治会長)と前谷地町内会(横川唯志会長)の2町内会が他の町内会に先駆けて取り組んでいます。

高齢者などの見守り活動 向陽台町内会と前谷地町内会の取り組みの概要

向陽台町内会 特徴 町内会加入率は77%と割と高いが、高齢者世帯が多く若い世代が少ない(※)

見守り活動を実施するまでの取り組み

- ①町内会長や民生委員などが日頃から地域住民とも顔見知りの関係を築いていたことから、町内会関係者の把握している情報を基に、見守り対象となる候補者を選定
- ②候補者には見守り活動の説明用チラシを使い主旨を説明
- ③候補者の理解や同意が得られた場合には「見守り活動意向確認カード」に記載してもらい、見守り対象者とする
- ④見守り対象者に何かあったときにすぐに連絡できるよう「関係機関の連絡先一覧」を作成し配布
- ⑤見守り活動は対象者の希望日に合わせ、活動者の負担にならないよう、月1~2回の訪問(見守り)を実施



◀見守り活動者による話し合い

- ⑥見守り対象者1人に対し見守り活動者を2人選定
- ⑦活動者は「実施マニュアル」「見守り活動記録」「不在連絡票」などをセットにした「見守り活動キット」と「見守り活動者カード(名刺など)」を携帯し見守り活動を実施

地域住民への周知方法

- ⑧見守り活動の実施を町内会の総会で説明、併せて周知用チラシを每户配布

前谷地町内会 特徴 学生向けのアパートが多く、町内会への加入率は42%と低い(※)

見守り活動を実施するまでの取り組み

- ①町内会関係者が町内会の加入者の中から見守り対象となる候補者を抽出
- ②候補者のほか、町内会の回覧で見守りの希望調査を実施
- ③調査の結果、希望者は無く、候補者も現時点で見守りを希望していなかったことから、あいさつなどの声掛けや家の外からの見守りを実施
- ④候補者の訪問を再度実施、聞き取りの結果、対象者を選定



▲見守り活動者による話し合い

- ⑤対象者ごとに活動者を選定
- ⑥見守り活動が地域の取り組みであることを周知するとともに、安心感を持ってもらうため、見守り活動時にはオレンジのベストを着用

地域住民への周知方法

- ⑦見守り活動の周知用チラシを回覧



▲見守り活動の様子



令和元年12月8日(日) まちづくり塾 (八戸市白銀地区の白銀振興会青年部部长 佐々木 孝雄さんを講師に招き開催)

東地区の「まちづくり」

同協議会では、高齢者などの見守り活動の他にも「東コミュニティふれあいの集い」や学区地域の運動会「もっと！いきいき健康運動会」などを実施しています。これら地域の行事はもちろんのこと、地域の将来を見据え、地域住民を対象に「住民主体の『まちづくり』とは何か」や「将来を見据えたコミュニティの担い手の育て方」などをテーマにした「まちづくり塾」やワークショップ（話し合いの場）も開催しています。

子どもたちも東地区の未来を考える

また、令和元年度には、市立東小学校（小原広基校長）や市、県と連携し、同校の6年生63人と地域住民を対象に「想像してみよう！東地区の未来」をテーマにワークショップを開催しました。このワークショップは、東地区の子どもたちに「自分たちが住むこの地区が『戻ってきたい』『住み続けたい』『人が集まる場所にしたい』地区になるためにはどうすればいいか」などを考えてもらうために企画されました。

子どもたちから「バラ焼き『おやつ』を増やしたら良い」「夜は外が暗いので防犯灯がもっとあったら良い」など、さまざまな意見が出ていました。



令和元年11月6日(水) ワークショップ
(東小学校6年生が東地区の未来を考えました)

地域の将来を見据え

同協議会は、東地区の数十年前先を見据え、町内会や学校、PTAなどが単体では解決できないことを「広域コミュニティ」として解決に向けて取り組んでいます。

「広域コミュニティ」は地域の暮らしを支えるための一つの手段です。

地域住民も含め、関係団体が共に助け合い、地域のつながりを大切にしながら、いつまでも笑顔で安心して暮らせる地域を目指して取り組みを進めています。

今号では、東地区のコミュニティ活動を紹介しましたが、皆さんの地域でも地域の将来を見据え、広域コミュニティづくりに取り組んでみませんか。



東地区コミュニティ
推進協議会
会長 太田 薫 さん

向陽台と前谷地町内会が先駆けて実施してきた高齢者などの見守り活動を東地区コミュニティ推進協議会の他の構成町内会にも広げていきたいと考えています。

また、いろいろな行事や活動を実施する上で、若い世代の力が重要と考えています。そのため、若い世代のメンバーで地域の盛り上げに成果を上げている八戸市白銀地区青年部との交流などを企画し、東地区の若い世代と一緒に活気のある地域をつくっていききたいと思っています。

これまでの取り組みは、もちろん継続しながら新しいことにも徐々に挑戦し、地域の皆さんと一緒に「地域の未来（望ましい姿）」に向かって取り組んでいきたいと考えています。

新たなコミュニティづくりを支援します

☎まちづくり支援課 ☎① 6725

令和元年度までに4地区（三小地区、南地区、東地区、法奥地区）で広域コミュニティが組織化されています。

市では、おおむね小学校区を単位とする広域的なコミュニティづくりを推進するため、勉強会や話し合いの場を設けるなど、コミュニティ組織の立ち上げや組織立ち上げ後の運営、地域課題解決のための活動を支援しています。地域で広域コミュニティづくりを検討している場合は、気軽にご相談ください。